

聖学院メサイア合唱団 第12回演奏会

● W. A. モーツァルト
Requiem
レクイエム
K626

Sancta Maria, Mater Dei K273

聖マリアの祝日のための昇階唱

Eine kleine Nachtmusik K525

アイネ・クライネ・ナハトムジーク



2017

4.29 土 祝日

14:00開演 (13:15 開場)

聖学院講堂

入場料 2,000 円 (全席自由)

指揮：長岡聡季

独唱：ソプラノ— 星川美保子

アルト— 谷地畝晶子

テノール— 望月 哲也

バス— 森野 光生

合唱：聖学院メサイア合唱団

管弦楽：The Pasania Hill Baroque Ensemble
(椎が丘バロックアンサンブル)

収益金寄付先：釜石ふるさと寄付金

主催— 聖学院メサイア合唱団 / 協力— 聖学院中高同窓会 / 協賛— 聖学院各校 PTA・後援会・同窓会他
お問合せ— Tel: 090-2492-8357 (森野) Mail: m_morino@seigakuin-univ.ac.jp

MOZART

SEIGAKUIN MESSIAH CHOIR



長岡 聡季

Satoki NAGAOKA

Conductor

東京藝術大学音楽学部付属高校、同大学、同大学院修士課程を経て、室内楽科博士後期課程修了。シューベルトの室内楽曲の研究により、同大学室内楽科初の博士号(音楽)取得。

現在はヴァイオリニストとしてソロ、室内楽を中心に活動し、オーケストラの分野でも、横浜シンフォニエッタコンサートマスターを務めるほか、神奈川フィルハーモニー管弦楽団、神戸市室内合奏団他、各地のオーケストラにてゲスト・コンサートマスターを務めている。

2008年東京藝術大学パッサカンタータクラブの演奏委員長(指揮者)への就任を機に、合唱指揮者としての活動を開始。現在、聖学院メサイア合唱団、合唱団コーロ・ヌオーヴォ常任指揮者を務める他、スプラ・アンサンブル、カメラータ・パッサ・トウキョウ他、合唱団の指揮・指導も行っている。

これまでに指揮法を松尾葉子、山田和樹の各氏に、合唱指揮、舞台語発音を大島博氏に師事。東京藝術大学室内楽科非常勤講師を経て、現在北海道教育大学岩見沢校音楽文化専攻特任准教授。



星川美保子

Mihoko HOSHIKAWA

Sopran

東京藝術大学音楽学部声楽科卒業、同大学院オペラ科修了。2003年よりドイツ・ライプツヒに留学。Christina Wartenberg氏に師事。

留学後の2005年3月に行われた二期会公演『魔笛』パミーナ役への抜擢で一躍脚光を浴び、続く10月『ジュリアス・シーザー』で演じたクレオパトラ役では、確かな歌唱技術と卓越した表現力で聴衆を魅了し、絶賛を博した。

コンサートに於いては、透明度の高い声質を生かし、殊に宗教曲を得意としている。芸大在学中、東京芸大パッサ・カンタータ・クラブに所属し、小林道夫氏のもとで研鑽を積み、パッサのカンタータのソロ及び合唱を数多く演奏している。

近年声楽の個人指導や合唱団のヴォイストレーナーとしても活動している。二期会会員。



谷地 敬晶子

Shoko YACHIUNE

Alt

岩手大学教育学部芸術文化課程音楽コース卒業。東京藝術大学音楽研究科博士後期課程 独唱科修了。第16回日仏声楽コンクール第1位。2012年度三菱地所賞受賞。第57回芸大メサイア、第28回 台東区第九、第349回芸大合唱定期ベートーヴェン「ミサ・ソレムニス」のアルトソロ、第54回芸大定期オペラ「ファルスタフ」クイックリー夫人を務める。また、J.S.バッハ「クリスマス・オラトリオ」、「口短調ミサ」、「マイ受難曲」、「ヨハネ受難曲」、ヘンデル「メサイア」、モーツァルト、ヴェルディ、ドヴォルジャーク、デュルフレ「レクイエム」、メンデルスゾーン「パウロ」「エリヤ」等においてアルトソリストで出演している。声楽を佐々木まり子、佐々木正利、故・朝倉蒼生、伊原直子、寺谷千枝子、森品彦の各氏に師事。岩手大学、岩手県立大学非常勤講師。



望月 哲也

Tetsuya MOCHIZUKI

Tenor

東京藝術大学および同大学院オペラ科修了。安宅賞、松田トシ賞を受賞。二期会オペラスタジオ修了。最優秀賞、川崎静子賞を受賞。文化庁新進芸術家海外留学制度研修員としてウィーンに留学。ウィーン国立音楽大学にて研鑽を積む。

奏楽堂日本歌曲コンクール第2位および日本音楽コンクールオペラ部門第2位入賞。オペラでは『魔笛』『ドン・ジョヴァンニ』等多数出演し、いずれも高評価を得る。近年は新国立劇場の公演にも多く出演している。

宗教曲も評価が高く、バッハ「マイ受難曲」「ヨハネ受難曲」など、そのレパートリーは40作品以上にもわたる。

『Il mio Tesoro』『Amarilli〜イタリア古典歌曲集』『ひそやかな誘い〜R.シュトラウス歌曲集』のCDをリリース。また男声ヴォーカルユニットIL DEVUとしても活躍、2枚のCDが日本コロムビアよりリリースされている。

鈴木寛一、Arrigo Pola、Ernst Haefliger、Walter Mooreの各氏に師事。二期会会員。大阪音楽大学特任准教授。国立音楽大学および聖徳大学講師。



森野 光生

Mitsuo MORINO

Bass

明治学院大学経済学部卒業。在学中グリークラブに所属し、学生指揮を担当(指揮法を池田宮英才東京女子大学教授に師事)。卒業後はKAY合唱団に所属し、故奥田耕天青山学院大学名誉教授のもとで宗教合唱音楽の研鑽を積むと同時に声楽のレッスンを始める(芳野靖夫元フェリス女学院大学教授に師事)。1979年頃よりソロ活動を始め、これまでに、パッサ「マイ受難曲」「ヨハネ受難曲」「口短調ミサ」「クリスマス・オラトリオ」「マグニフィカト」「カンタータ」、ヘンデル「メサイア」、ハイドン「天地創造」モーツァルト、フォーレ「レクイエム」、ベートーヴェン「第九」「荘厳ミサ」等主に宗教曲のソリストとして、多くのオーケストラ、合唱団と共演している。聖学院メサイア合唱団団長。パッサ協管弦楽団・合唱団専属ソリスト、東京クリスマス・オラトリオ・アカデミー所属、(株)聖学院ゼネラルサービス代表取締役。



聖学院メサイア合唱団

私達「聖学院メサイア合唱団」は学校法人聖学院諸学校(聖学院幼稚園、聖学院大学附属みどり幼稚園、聖学院小学校、聖学院中学校・高等学校、女子聖学院中学校・高等学校、聖学院大学、聖学院大学大学院、聖学院アトランタ国際学校(幼・小)の卒業生、保護者、教職員が構成メンバーです。2005年11月25日、聖学院中学高等学校の創立100周年(1906年創立の聖学院中学校)を記念したプレ・イベントがその最初の公演でした。その素地は遡ること約60年、昭和20年代に数年間、聖学院生徒と女子聖学院の生徒が合同でメサイアの抜粋を演奏しており、当時歌っていたOBが、立派な講堂が出来たのをきっかけにまた歌おう、とこの合唱団が生まれました。以来、長谷川朝雄先生(聖学院第45回生)が第7回まで指揮をして下さり、第8回より長岡聡季先生にバトンタッチされました。